



## 車両等

### ☆鉄軌道車両のバリアフリー化状況

区分	総車両数	基準適合両数	基準適合率
鉄道車両	590	113	19.2%
軌道車両	103	11	10.7%
合計	693	124	17.9%

### ☆乗合バスのバリアフリー化状況

車両総数	区分	基準適合両数	基準適合率
1056 ※1	低床バス※2	607	57.5%
	ノンステップバス	435	41.2%

※1 車両総数は、総車両数(1,720台)から基準適用除外認定車両数(高速バス等)を除いた車両数である。

※2 ノンステップバスを含む。

### ☆旅客船のバリアフリー化状況

総隻数	基準適合隻数	基準適合率
97	34	35.1%

### ☆福祉タクシーの導入状況

基準適合両数
814

※ バリアフリー新法の施行により、平成19年度から導入された基準適合車両数のみの集計である。



伊予鉄道(株)土居田駅(平成27年度バリアフリー化)



三洋汽船(株)新なぎさ2(平成27年度バリアフリー化)

## 消費者行政インタビュー

四国運輸局では、消費者ニーズや消費者行政上の課題を把握し、その結果を行政に役立てていくことを目的として公共交通機関の利用者等を対象にインタビューを行っています。

今の時代の公共交通機関として『変わる』チャレンジを (No.41 5月発行)

創立125年を超える歴史の中で育まれた経営理念を継承しつつ、今の時代の公共交通機関として「変わる」ことにチャレンジする、伊予鉄道(株)の清水一郎社長に、『IYOTETSUチャレンジプロジェクト』の取組についてお話を伺いました。

### 取組の概要

#### ～伊予鉄道が「変わる」チャレンジ～

伊予鉄グループでは、平成21年に「経営理念」「行動規範」「CSR推進キーワード」について取りまとめ、『CSR推進宣言』として策定しました。

このCSR宣言のコンセプトを継承しつつ、少子高齢化、人口減少という社会の変化や、外国人観光客の受け入れといった新たなニーズに対応するために打ち出されたのが、『IYOTETSUチャレンジプロジェクト』です。

### インタビュー

『IYOTETSUチャレンジプロジェクト』とはどのような取組なのでしょう？

時代の変化に対応し、新たな需要を創出するため「IYOTETSUチャレンジプロジェクト」をスタートさせました。①乗ってみたいくなるような電車・バス、②観光振興への対応、③お客さま視点での安全・サービス向上の3つのチャレンジを柱としています。



伊予鉄道(株) 清水社長

「チャレンジ1 乗ってみたいくなるような電車・バス」の取組をお聞かせ下さい。



単なる移動手段ではなく、乗ること自体が楽しくなる「夢のある公共交通」を目指しています。少子高齢化に人口減少と、公共交通を取り巻く環境は年々厳しさを増しており、手をこまねいては電車やバスの利用者減少に歯止めがかかりません。通勤や通学はもちろんのこと、子どもから若者、お年寄りまで幅広い層の皆さんに、日頃の様々なシーンの中で気軽に利用いただかなければなりません。そこで、皆さんにより一層親しまれるよう電車・バスのデザインを一新。「IYOTETSU」という英語ロゴを採用するとともに、車両のカラーを愛媛らしく柑橘をイメージしたオレンジ色に統一しました。柑橘王国・愛媛の県都・松山に行けば、「オレンジ色の車両が街に溶け込んでいて、一葉の絵はがきのような風情を

醸し出している。」「オレンジ色の電車・バスに乗りたくて松山に行く。」そんな魅力的な存在になれば、外国人を含めた観光客の誘致にも一層弾みがつくのではないのでしょうか。

🗎愛媛らしいオレンジ色に統一することで、視覚的に伊予鉄が変わることをアピールしているということですね。

では次に「チャレンジ2 観光振興への対応」の取組をお聞かせ下さい。

具体的にはまず、駅やバス営業所の行先表示案内や駅名表示、電車方向幕などを英語併記にするとともに、駅のナンバリングを行うなど、外国人にも分かりやすく利用しやすいものにしました。さらに、外国人観光客もよく利用する路面電車は、英語のアナウンスを導入したほか、観光客の多くはスマートフォンで情報を調べることから、移動中の電車内でもインターネットにアクセスできるよう、Wi-Fi環境の整備を推進しています。また、愛媛県の「サイクリングパラダイス構想」に合わせ、自転車をそのまま郊外電車に持ち込める「いよてつサイクルトレイン」をスタートさせました。さらにサイクルバス・サイクルタクシーも運行しています。



政府が今年3月末にまとめた「明日の日本を支える観光ビジョン」では、インバウンドの目標を2020年の2,000万人から4,000万人へ、2030年には6,000万人へと上方修正しています。これは、円安等を背景に爆発的に訪日外国人旅行者数が増加したことを踏まえたものです。この達成に向けての鍵となるのは、インバウンドの流れを地方に導き、全国各地に経済波及効果をもたらすことです。この点は、東京～富士山～京都の「ゴールデンルート」がありますが、この流れを松山まで引き込むため、京都～広島～松山「新ゴールデン

ルート」と位置付けられました。また、政府が打ち出した「地方創生」の総合戦略においては、「世界遺産」に準じる「日本遺産」の登録が盛り込まれ、四国八十八ヶ所霊場巡りは、その第1号に選ばれました。さらには観光庁が認定した全国7か所の広域観光周遊ルートに「四国遍路」「せとうち・海の道」と四国・愛媛が2か所も選ばれています。四国・愛媛は、歴史、文化、自然等の観光資源の潜在的なポテンシャルを持っています。現在、四国を訪れる外国人観光客はアジア地域が中心ですが、今後は欧米からの訪日客をさらに誘致することも十分可能です。松山イン、松山アウトのみならず、ルート観光として、どこからでも四国・瀬戸内海地域に入り、どこからでも出て行けるような多様性も必要です。

🗎訪日外国人旅行者数 4,000 万人の高みに向けて、交通関連分野での訪日外国人旅行者の受入環境整備と地方への展開が必要になると思いますのでよろしくお願いします。

では最後に「チャレンジ3 お客さま視点での安全・サービス向上」の取組をお聞かせ下さい。

多くの皆さんに利用いただく公共交通機関として、安全の確保が最重要です。その上でお客さまの立場から、徹底してサービスの向上を追求し、ハード・ソフトの両面にわたって「人にやさしい電車・バス」を目指します。

安全対策では、バスに続いて市内電車にもドライブレコーダーを導入し、安全運行および乗務員の教育に役立



今年3月の駅舎建替で、  
駅機能が格段に向上した横河原駅駅舎

てています。さらに、駅舎や待合所、ホーム、駐輪場やトイレの美化にも取り組んでいます。また、最も重視しているのが「おもてなしマインド」です。松山市は「おもてなし日本一のまち」宣言を行い、地元経済団体や観光関連事業者などと連携しながら地域を挙げて観光客を大切におもてなしする取り組みを進めています。私たちも、地元のお客さまはもちろん、観光客にも心から乗って良かったと思っただけの電車・バスをめざし、研修等を通じて接客やアナウンス力の向上に努めています。

🗣️先日、伊予鉄道の路面電車を利用しましたが、視覚障害者の方が乗車しようと近づいてきたら、運転士の方がすぐさま駆け寄り、介助を行っていました。非常に印象が良かったです。

公共交通の現場では、乗務員任せになることが多く、企業の理念の実践が難しいわけですが、お客さま視点での安全・サービス向上が現場に徹底しているのだと感じました。

🗣️伊予鉄道の3つのチャレンジを聞かせていただきましたが、今後、どのような取組をさらに推進される予定でしょうか。



松山市駅前には、交通・観光の結節点であり、愛媛・松山の中心地です。この松山市駅のシームレス化は、利用者の利便性向上のためにも最優先の課題です。郊外電車と路面電車・バスを乗り継ぐ際、歩行者は車道を横断しなければなりません。乗り継ぎがシームレス化されると、安全で利便性の高い広場空間となります。関係機関とも検討を重ね、できる限り早期の実現を目指したいと思います。また、路面電車の車両については、連結型LRTを導入することでバリアフリー化を図り、愛媛・松山のシンボルとなるような公共交通にしていきたいと考えています。

また、昨年からは伊予鉄道としては戦後初めて、電車の女性車掌を採用し、昨年は4名、今年は3名を採用しました。ソフトなイメージや物腰、女性特有のやさしさと心配りは、まさに「おもてなしマインド」の象徴的存在であり、お客さまからも好評を得ています。

### インタビューを終えて

訪日外国人旅行者数 4,000 万人の高みに向けた、交通関連分野での訪日外国人旅行者の受入環境整備が求められるところですが、観光客にとって魅力的な地域づくりを進めるためには、駅から先、空港から先、港から先の交通（二次交通）を便利にしていくことが重要な課題となっています。また、こうした課題を克服することは、観光客だけでなく、地域の利用者すべての人が社会活動に参画できる社会を目指して、身近で利用しやすい交通手段の確保や交通バリアフリーの充実に向けた取組として有効と言えます。都市部では、駅の表記や窓口、車内放送などは多言語化が進みつつあり、また、タブレット端末による対応を実施しているところもありますが、二次、三次交通の場合、地方での取組はまだまだ進んでいない現状です。

『IYOTETSU チャレンジ プロジェクト』は、こうした課題に対して、交通事業者からの自発的な意志として非常に先進的であり、利用者の利便性向上のための更なるチャレンジが期待されます。

『IYOTETSU チャレンジ プロジェクト』はこちらから  
→<http://www.iyotetsu.co.jp/img/pdf/challenge.pdf>

インタビュー実施日：平成28年4月22日（金）・聞き手：久保田、竹内

芸術の島で海の復権を目指す (No.42 8月発行)

香川県の離島「直島」と香川県高松市、岡山県玉野市宇野とを結ぶ航路を6隻の船舶で運航され、離島住民の生活の足を支えておられる船舶運航事業者である、四国汽船(株)の野崎社長（※当時、現会長）にお話を伺いました。

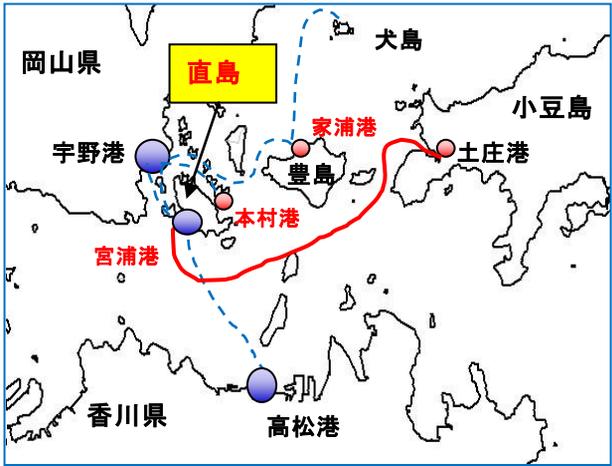
直島の概要

直島は、高松市からフェリーで約50～60分の距離にあり、面積約14平方キロメートル、人口約3,100人の瀬戸内海に浮かぶ大小27の島々からなる豊かな自然と歴史を有する町であるとともに、近年は「芸術の島」として世界的に注目を浴びる観光リゾート地として変貌をとげており、「過疎の島」と「芸術の島」との2面性を持ち、交流人口の拡大が進んでいます。



島はもともと海運業や製塩業の島として栄えていましたが、大正時代に銅製錬所が建設され、さらに発展しました。その後、平成に入ってホテルや美術館の建設・開館が進み、島全体を現代アートの美術展として発信することが話題になり、瀬戸内国際芸術祭の舞台としても知られ、多くの観光客が訪れています。車で1周20分程度の島内には、島の玄関口である宮之浦エリア、空き家等を改修した「家プロジェクト」等がある本村<sup>ほんむら</sup>エリア、複数の美術館を有する美術館エリアといった観光エリアがあります。

直島への交通手段は、岡山県宇野港からフェリーで20分・高速艇で15分（宮浦港）、高速艇で20分（本村港）、香川県高松港からフェリーで50分・高速艇で25分（いずれも宮浦港）のほか、直島から豊島（家浦港・22分）を経由して犬島（犬島港・25分）を高速艇で結ぶ航路もあります。また、瀬戸内国際芸術祭の期間中には、小豆島（土庄港）と宮浦港を45分で結ぶ高速艇もあります。



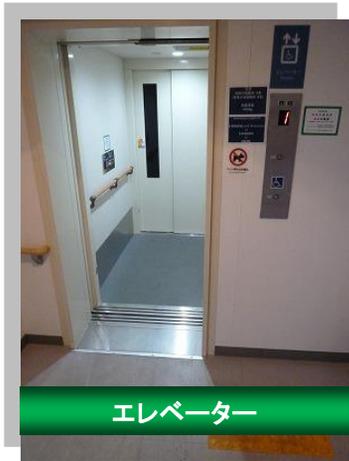
船舶・航路の紹介、事業者インタビュー

直島住民の生活航路となっている高松～宮浦～宇野航路は、国や地方自治体などの補助を受けずに、四国汽船(株)が全長約23kmをフェリー2隻と高速艇3隻で運航しており、うち4隻がバリアフリー基準に適合しています。フェリーは、高松～宮浦が1日5往復、宮浦～宇野が1日13往復、高速艇は、高松～宮浦が通年では1日1往復、3月～11月の金土日祝のみ1日4往復、宮浦～宇野が通年では1日4往復、3月～11月の金土日祝のみ1日3往復となっています。

◆「フェリーなおしま」



用途	旅客フェリー	船質	鋼	航行区域	平水区域
総トン数	1099	長さ	67.61	幅	15
深さ	3.79	航海速力	12ノット		
就航日	H27.5.1	旅客定員	500		



🦿 瀬戸内国際芸術祭の春会期が4月に終了しましたが、期間中、観光客などのフェリー、高速艇利用者は増加しましたか。また、春会期終了後はどうですか。



香川県が観光の取り組みに力を入れてくださっていることもあり、利用客が増えており感謝しております。最近では直島のみならず豊島へ行かれるお客様も増えているように実感しております。外国人観光客については、アジアからは団体でのご利用が多く、欧米の方はバックパッカー等少人数で来られるケースが多いです。春会期終了後は落ち着きました。

🦿 瀬戸内国際芸術祭来訪者の増加への取組があればお聞かせ下さい。

昨年、直島航路に就航させた新造船「なおしま」は、瀬戸内国際芸術祭に来られる方をターゲットに、瀬戸内の風景を楽しめるような設計にしました。特徴としては、客室窓の高さを膝あたりまで下げましたので、手で海面を触れられそうな感じになります。船体にはアートを施し、船内には絵画や写真を飾り、船に乗ったときからアートを感じてもらっています。外国から来られる方のためのホスピタリティ向上のために、英語による船内放送を行うほか、英語併記の直島案内マップも掲示しています。このほか、当社ホームページの英語版開設のほか、時刻表も英語版を掲載しています。また各支店の看板も英語表記にしています。



🗺️ 芸術祭の来場者は20歳代と30歳代で全体の約半数を占めているという調査結果が出ています。一方、これまではフェリーの存在が若者にあまり知られていなかった問題がありますが、若者にフェリーを利用してもらうための工夫やとりくみやご意見があればお聞かせ下さい。

海を知らない若者は増えてきています。その中で、船内を今までと変えることにより、リピーターになってもらい、そこから若いお客様への認知度を上げていけたらと考えております。

また、行政へのお願いとして、海・船を知ってもらえるよう、運輸局からもさらに発信をしていただければと思っています。観光振興も業務の一つかと思っておりますので、学校の遠足等で機会を設けるなど、教育委員会等に働きかけいただきたいと思っています。

外国の方には「Seto Inland Sea」で売り込みを図っていますが、未来の利用者確保のためにも学校へのはたらきかけは重要だと思っています。



🗺️ 一方、離島の住民にとって海上交通は欠くことの出来ない存在ですが、高齢化が顕著な離島住民の生活の足として、普段どのような事に注意、又は従業員への指導をされていますか。

ハード面での対応としてのバリアフリー船就航はもとより、ソフト面での対応として、お客様から好感を持っていただけるよう、接客態度・身だしなみ、お困りのお客様への声掛けをするよう指導しております。

🗺️ 船員さんは何名ですか。高齢化していますか。

会社全体では37名です。実際高齢化してきており、船員不足と言われている中で、労働環境の整備と、いかに船員を確保するかが今後の課題であると考えております。

🗺️ 新造船「なおしま」について、利用者からの反応はどうか。



アートの島「なおしま」にあった船体デザインを採用しており、また瀬戸内海を近く感じていただけるよう窓を限界まで広くしております。また、白を基調にした客室にしており非常に明るく感じられる客室になっております。

それを感じ取っていただけているのか、多数のお客様に「きれい！」「船の中とは思えない」というような感想をいただいております。

🗺️ 利用者はどのような方が多いですか。

近年、観光目的のお客様が増えておりますが、島民の唯一の交通手段となっているため通勤・通学等様々なお客様が多数ご利用されます。季節にもよりますが、観光客の占める割合が増えている実感はあります。



🕒 四国汽船では、フェリー3隻、高速艇3隻を就航させており、そのうち5隻がバリアフリー基準に適合しています。また、平成12年の交通バリアフリー施行前にすでにエレベーターを備えたフェリー「あさひ」を就航させており、その先駆的な取組により、平成26年3月に四国運輸局長表彰を受賞されました。差し支えなければ今後の計画をお聞かせください。

数年以内に新船（あさひの代替船）を計画しております。また、構想段階ではありますが、現新造船「なおしま」以上にアート、環境、お客様の利便性を意識した船にしたいと考えております。

### インタビューを終えて



インタビュー当日は、あいにくの雨模様の平日でしたが、それでも船内は観光客がほとんどで、特に外国人観光客の姿が目立ちました。島内を結ぶバスもほぼ満員で、離島のバスとは思えない混雑ぶりでした。一方、島の名前の由来となっている素直な島民と観光客のふれあいにより、無秩序な観光地ではなく、ゆったり落ち着いた印象を受けました。

直島が抱える課題としては、瀬戸内国際芸術祭が、いわゆる観光シーズンの繁忙期に開催されることから、観光客が集中し、交通機関の積み残し等による不満が当初ありましたが、その後の自治体や交通事業者と観光事業者との連携により、既存航路の増便や臨時航路の開設、島内移動手段の拡充、効率的な情報提供により、周遊性を高め、リピーターの増加に努めてきました。

人口減少や燃料油価格の高騰で航路維持が大変厳しい中、単なる離島の輸送機関ではなく、瀬戸内国際芸術祭の目的である「海の復権」のため、「人口減少や、燃料価格の変動に関係なく、船は安定して動かしていかなければなりません。」と笑顔で話された野崎社長の言葉が大変印象的でした。

インタビュー実施日：平成28年6月7日（火）・聞き手：竹内、中村

# バリアフリー教室を開催しています



急速な高齢化や障がい者等の自立と社会参加の要請に適切に対応し、日常生活及び社会生活における移動上及び施設の利用上の利便性及び安全性の向上の促進を図るためには、施設等の整備（ハード面）とともに、誰もが手助けしやすい環境づくり（ソフト面）を行うことが求められています。

四国運輸局では、少しでも多くの方が、交通バリアフリーについての理解を深めるとともに、ボランティア意識を醸成し、誰もが高齢者・障がい者等に対し、自然に快くサポートできる「心のバリアフリー」社会を実現するため、平成13年度から「バリアフリー教室」を開催しています。なお、平成15年度からは、小学校の総合学習の一環としてもバリアフリー教室を開催しており、今後もこうしたバリアフリー新法の趣旨を踏まえ、四国各地で継続的に開催を予定しています。

## 【バリアフリー教室の主な内容】

### ① 車いす利用者介助体験

車いすを使って車いす利用者及び介助者双方の立場で体験学習を行います。また、実際に車いすを利用している方にアドバイザーとしてコースを同行してもらい、介助される方のご意見等を伺います。



車いすで介助体験

### ② 視覚障がい者介助体験

アイマスクを着用し、視覚障がい者及び介助者双方の立場で体験学習を行います。また、目の不自由な方にアドバイザーとしてコースを同行してもらい、介助される方のご意見等を伺います。



アイマスクをつけてバスの乗降

### ③ 高齢者疑似体験

加齢に伴う高齢者特有の身体機能状態を再現する器具を装着して、高齢者の身体的不自由さを体験するとともに、介助の方法を学習します。



特殊器具を装着しての歩行体験

## 【過去5年間の開催実績】

実施年度	実施日	開催場所	参加者数	対象
平成27年度	平成27年10月9日	藍住町立藍住西小学校	94名	小学生(4年生)
	平成27年10月20日	丸亀市立城辰小学校	59名	小学生(5年生)
	平成27年11月5日	丸亀市立城南小学校	84名	小学生(4年生)
	平成27年11月25日	徳島市立上八万小学校	39名	小学生(4年生)
	平成27年11月27日	つるぎ町立太田小学校	38名	小学生(1~6年生)、保護者
	平成28年2月17日	高松空港	19名	高松空港ユニバーサルデザイン推進専門部会構成員等
平成26年度	平成26年9月24日	丸亀市立城南小学校	101名	小学生(4年生)
	平成26年10月2日	西条市立橘小学校	53名	小学生(2、3、4年生)
	平成26年10月7日	丸亀市立城辰小学校	84名	小学生(5年生)
	平成26年10月15日	藍住町立藍住西小学校	87名	小学生(4年生)
	平成26年10月28日	徳島市立八万南小学校	106名	小学生(4年生)
	平成26年10月31日	三好市立三縄小学校	80名	小学生(1~6年生)、保護者
	平成26年11月7日	徳島市立上八万小学校	52名	小学生(4年生)
	平成27年2月17日	高知龍馬空港	25名	高知龍馬空港ユニバーサルデザイン推進部会構成員等
平成25年度	平成25年6月28日	さぬき市立津田小学校	51名	小学生(5年生)
	平成25年10月11日	西条市立楠河小学校	34名	小学生(3、4年生)
	平成25年10月17日	高知市立神田小学校	89名	小学生(3年生)
	平成25年10月23日	丸亀市立城辰小学校	77名	小学生(5年生)
	平成25年10月30日	徳島市立上八万小学校	50名	小学生(4年生)
	平成25年11月26日	徳島市立八万南小学校	84名	小学生(4年生)
	平成25年11月27日	藍住町立藍住西小学校	106名	小学生(4年生)
	平成26年3月12日	徳島阿波おどり空港	21名	徳島阿波おどり空港内従業員
平成24年度	平成24年6月28日	文化の森総合公園	49名	徳島市立上八万小学校・小学生(4年生)
	平成24年9月7日	さぬき市立津田小学校	58名	小学生(5年生)
	平成24年10月10日	三豊市立比地大小学校	17名	小学生(4年生)
	平成24年11月27日	徳島市立八万南小学校	89名	小学生(4年生)
	平成24年11月28日	丸亀市立城辰小学校	69名	小学生(5年生)
	平成24年11月30日	藍住町立藍住西小学校	96名	小学生(4年生)
	平成25年3月7日	高知龍馬空港	14名	高知龍馬空港利用者促進利便向上協議会構成員等
	平成25年3月13日	松山空港	26名	松山空港内従業員
平成23年度	平成23年6月21日	四国中央市立妻鳥小学校	64名	小学生(4年生)
	平成23年7月4日	さぬき市立津田小学校	66名	小学生(5年生)
	平成23年9月29日	丸亀市立城辰小学校	79名	小学生(5年生)
	平成23年10月26日	藍住町立藍住西小学校	114名	小学生(4年生)
	平成23年11月29日	文化の森総合公園	56名	徳島市立上八万小学校・小学生(4年生)
	平成24年1月19日	高知市立三里小学校	39名	小学生(3年生)
	平成24年3月7日	高松空港	35名	高松空港ユニバーサルデザイン推進専門部会構成員等

### ◇申し込み方法◇

バリアフリー教室開催をご希望の方は、お電話又はメールにて、消費者行政・情報課までご連絡ください。

TEL：087-825-1174

MAIL：skt-Shikoku-shohisha@m1.mlit.go.jp

担当：竹内、中村

ご連絡の際は、以下の内容をお伝え願います。

- ①学校名
- ②窓口となる先生の氏名
- ③連絡先電話番号
- ④対象学年
- ⑤クラス数、人数
- ⑥開催希望日（第1～3希望）
- ⑦開催時間帯（午前か午後か）

## 交通消費者行政レポート(平成27年度報告)を発行

平成27年度の交通消費者行政をとりまとめた「交通消費者行政レポート」を発行しました。

レポートは、行政相談、バリアフリーへの貢献による国土交通大臣表彰、消費者行政インタビューの各概要と、交通バリアフリーの推進として、四国における交通バリアフリー推進基本方針の概要、四国における交通バリアフリーの現状、平成27年度における交通バリアフリー推進の取り組みを紹介する内容となっています。

なお、本レポートは四国運輸局ホームページに掲載しています。

URL：<http://www.tb.mlit.go.jp/shikoku/soshiki/seisaku/report.html>



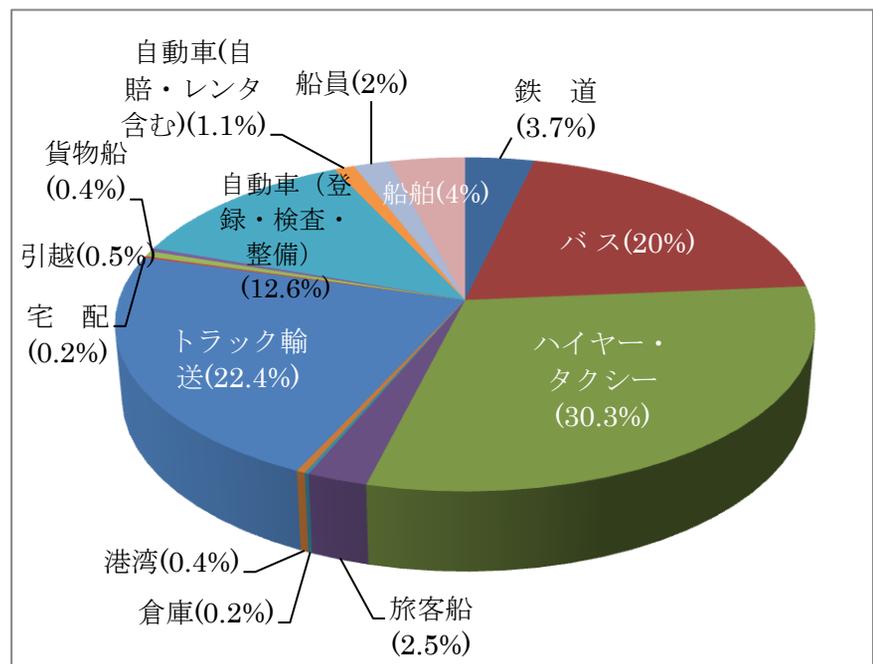
### 行政相談

四国運輸局では、交通に関する意見要望、問い合わせ、苦情等の行政相談に対応するため、運輸局及び運輸支局等に行政相談窓口を設置し、国民利益の保護と行政運営の改善を図っています。

#### 《行政相談の傾向》

モード別の行政相談件数割合は、右図のとおりであり、相談内容は、意見・要望が67%を占めています。

平成27年度モード別割合（意見・要望、問い合わせ）



#### ◇バスに関する相談例

＜問い合わせの内容＞ ○○バスの○○バス停で午前7時5分発のバスを待っていたら、止まらずに素通りされてしまった。また、昨日はその先のバス停でも素通りされていたらしいし、前にもこのバス停で素通りされたことがある。事業者を注意してほしい。

＜措置＞ 事業者を確認したところ、昨日は、雨天及び渋滞により運転手が「○○」に25分遅れて到着した。バス停には旅客がいなかったためバスを停車させずにそのまま通過したが、後にドライブレコーダーを確認するとバス停から30mほど離れたところにある病院跡地で4人ほどが雨宿りをしていたのが確認された。運行管理者・運転手に周知すること及び「○○」を含めバス停では乗客の有無を十分に注意して運行するよう指導を行った。

みなさんからのご意見・ご投稿をお待ちしています。バリアフリーに関するものならなんでも結構です。四国運輸局消費者行政・情報課まで、FAXまたはメールでお寄せください。



〒760-0064 香川県高松市朝日新町1-30

電話 087(825)1174

FAX 087(822)3412

Email: skt-Shikoku-shohisha@ml.mlit.go.jp



国土交通省

四国運輸局ホームページも是非ご覧ください

<http://www.tb.skt.mlit.go.jp/shikoku/>

このニュースは、交通バリアフリー関係の話題を中心に、四国4県自治体のバリアフリー関係担当部署、交通事業者及び地域のNPOの方にお送りしています。このニュースの配信につきまして、配信先の追加、変更や停止をご希望される方は、お手数ですが本メールの返信機能でご連絡ください。